

5月31日陸上自衛隊第37普通科連隊の訓練見学会ならびに訓練体験を実施いたしました。

当日は天候もよく信太山駐屯地に集合したメンバーは早速駐屯地内を見学させていただきました。

信太山駐屯地は日清日露両役で勇名を馳せた陸軍野砲兵第4連隊が大正8年に大阪城より移駐した由緒正しい駐屯地です。大阪府か唯一の実戦部隊で大阪府、和歌山県の防衛の任にあたっており私たちのまちの被災活動も行っていただいています。まずは道場で銃剣道の練習風景を見せていただきました。

銃剣を模した木の棒で相手の心臓、喉を突くと一本となります。この37連隊は猛者ぞろいのハイレベルな部隊らしいです。そのあと本物の銃剣を持った訓練も見学いたしました。本物を持たせてもらいましたがかなり重量がありました。続いて防弾チョッキとヘルメットを装着し装甲車にて演習場に行きました。普段はなかなか乗せていただけない装甲車ですが車高はかなり低く乗り心地もかなり悪いものでした。

演習場では市街戦での制圧訓練を見学しました。

10名くらいの隊員が連絡を取りながらドアを蹴破りライフルで部屋の中にいる人形をなぎ倒していきます。

空砲ですがすごい迫力でした。以前はこのような訓練は警察のみが行なっていましたが安全保障のあり方が変化する近年、5年ほど前からこのような訓練が不可欠となっていると聞きました。

この部隊だけが米軍海兵隊のやり方をグアムでまなび実行しています。実戦に即した方法でかなりの緊張感が伝わってきました。続いて暗視鏡という赤外線をついたヘルメットをかぶり暗闇のなかで戦闘する訓練を体験しました。真っ暗闇なのですがそのカメラを通すと前が見えるという不思議なものでした。

その後駐屯地に戻りバリバリの若手隊員の方々約30名と一緒にバーベキューを行ないました。すべて手作りの設えで男性、女性隊員の方々から国防の話、自衛官を志したいきさつ、訓練の苦労話などさまざまな話を美味しい肉と冷たいビールを飲みながら交流と懇親を深めました。私の隣にいた女性自衛官25歳は阪神大震災を経験して自ら災害派遣で人を救う仕事がしたいと自衛官を志したようです。しかしながら孤独な山のなかでの訓練では「自分はいったい何をしているんだろう」「自衛官になって本当によかったんだろうか」という考えが頭によぎるといっていました。「あなたがいるから日本の国の平和と安全がまもられてるんだよ」「君たちは日本の宝だ」という話をすると「今日の皆さんの励ましを思い出してもっと頑張ります」と涙ぐんでおられました。短い時間でしたが大変内容のある意義深い研修会となりました事をご報告させていただきます